



そばは、日本では縄文時代から栽培されていたといわれ、天候にあまり左右されることなく収穫できる、いわゆる凶荒作物として重宝されてきた。

佐々木さんは初めてそばを栽培するに当たって独学で勉強。そして、何とか収穫に至り、それを自家製の手打ちそばとして食用していた。そのうち、佐々木さんの噂を聞いて、隣近所や地域から栽培地を訪ねて来る人が増えてきた。

その後、そばを栽培する農家の仲間も徐々に増えてきた。そこで、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、

### そばにかける思い

参加者は、10月2日（日）当日、南外支所前に集合し、佐々木さんから「南外のそばと南外の地を体験していいください」と歓迎の言葉を受け、そば作付け現場に向かつた。現場となつた佐々木さんは、主要道路から少し離れ、家の周りには田んぼと畑しかない。しかし様々な野菜や花があり、奥では鶏や兎が飼われていて、いかにも農家らしい。

作業の説明を一通り受けた後、参加者は初めて手にする刈り取り鎌を持って、茶色に色づいたそば畑に下りた。しかし、手が止まつた。それを見た会員の佐藤正巳さん（77）から、鎌の持ち方、刈り取るときの姿勢など手取り足取りの指導を受けた。参加者は作業の大変さに納得しながら、ぎこちない手つきで刈り取り作業を終えた。

ここで一休み。地域では当たり前の「たばこ」（休憩のこと）の時間である。汗を流した後、作業を振り返つて自慢話に花を咲かせるひとときは最高である。

休憩後は脱穀作業。湾曲した50センチの杉枝の叩き棒で、刈り取ったそばの束をバンバン叩いて実を

落とす。それを唐箕（とうみ）という手動選別機にかけて熟した実を拾い出す。最後に、そばの実を石の挽き臼にかけて粉にした。

こうして、そば粉ができる時に、参加者は目を丸くして喜んだ。そして、自分の手で収穫する感動を感じて、自分の中を紹介した。最後はそば打ちを体験した。

参加者の一人は、「南外の温かいおもてなしに感謝し次回も参加したい」と笑顔で語った。こうして、凶荒作物のそばが人の中を取り込んだ。最後は、南外の多くの地で、お盆過ぎにそばの白い花が見られる。

佐々木会長は、「今後もそばを通して、南外の地に多くの人が集まり、農作業を共有して交流できたらいいな。そして、南外の地と農業を理解してもらうことで、地域にももっと元気が出してくれればいいな」と締めくくった。

# そばが取り持つ交流

## ～南外そばの会の活動～

南外地域



体験ツアー参加者と

平成19年（2007）11月、仲間交流し、栽培技術を交換しようと、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、

佐々木さんは初めてそばを栽培するに当たって独学で勉強。そして、何とか収穫に至り、それを自家製の手打ちそばとして食用していた。そのうち、佐々木さんの噂を聞いて、隣近所や地域から栽培地を訪ねて来る人が増えてきた。

その後、そばを栽培する農家の仲間も徐々に増えてきた。そこで、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、

米の生産を制限する減反政策の中、稻作に代わる作物の栽培にどの農家でも頭を悩ましてきた。農家の佐々木茂治さん（65）は、作業が稻作栽培と重ならず、瘦せた土地でも短期間で生長する作物はないかと考え、子どもの頃栽培されていたいたそばを思い起こし、早速植えてみることにした。

そばは、日本では縄文時代から栽培されていたといわれ、天候にあまり左右されることなく収穫できる、いわゆる凶荒作物として重宝されてきた。

### そばが人を集めれる

佐々木さんは初めてそばを栽培するに当たって独学で勉強。そして、何とか収穫に至り、それを自家製の手打ちそばとして食用していた。そのうち、佐々木さんの噂を聞いて、隣近所や地域から栽培地を訪ねて来る人が増えてきた。

その後、そばを栽培する農家の仲間も徐々に増えてきた。そこで、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、

米の生産を制限する減反政策の中、稻作に代わる作物の栽培にどの農家でも頭を悩ましてきた。農家の佐々木茂治さん（65）は、作業が稻作栽培と重ならず、瘦せた土地でも短期間で生長する作物はないかと考え、子どもの頃栽培されていたいたそばを思い起こし、早速植えてみることにした。

そばは、日本では縄文時代から栽培されていたといわれ、天候にあまり左右されることなく収穫できる、いわゆる凶荒作物として重宝されてきた。

### そば収穫・そば打ち体験ツアー

佐々木さんは初めてそばを栽培するに当たって独学で勉強。そして、何とか収穫に至り、それを自家製の手打ちそばとして食用していた。そのうち、佐々木さんの噂を聞いて、隣近所や地域から栽培地を訪ねて来る人が増えてきた。

その後、そばを栽培する農家の仲間も徐々に増えてきた。そこで、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、佐々木さんは、ならば農家同志が交流し、栽培技術を交換しようと、

### そばの栽培開始

と共に「南外そばの会」（会長：佐々木茂治・会員20人）を立ち上げた。

また、会では、そば農家のPRに、平成20年から毎年恒例の南外地域祭で、そば打ちの実演を披露している。さらに、平成23年から

は小・中学生を対象にそば打ち体験の指導も行っている。

品の工夫を行つて農家にも経済的な潤いをとしたものである。

また、会では、そば農家のPRに、平成20年から毎年恒例の南外地域祭で、そば打ちの実演を披露している。さらに、平成23年から

は小・中学生を対象にそば打ち体験の指導も行つていて、

品の工夫を行つて農家にも経済的な潤いをとしたものである。

また、会では、そば農家のPRに、平成20年から毎年恒例の南外地域祭で、そば打ちの実演を披露している。さらに、平成23年から

は小・中学生を対象にそば打ち体験の指導も行つていて